



2018.7.20

藤島高校図書委員会

# 読書界 7月号

## テーマ「青春小説」

『スロウハイツの神様』 辻村深月

作家、編集者、脚本家、画家、映画監督、漫画家が住む現代版「トキワ荘」のようなアパートが舞台の物語。人気急上昇中の脚本家で「スロウハイツ」オーナーである赤羽環。住人は環にとって特別な作家・コーキと彼女の友人5人。全員が第一線で活躍している訳ではないが、それぞれの夢に向かって悩みを抱えながらも進んでいく。新たな住人やひとつの荷物で変化する人間関係や環の過去など見所満載だ。関連作品も何作か出版されている。そちらもぜひ読んでほしい。

1-3 田辺よしの

『夜のピクニック』 恩田陸

昨年、『蜜蜂と遠雷』で直木賞、本屋大賞を受賞された恩田陸の2005年本屋大賞受賞作である。主人公の甲田貴子は「歩行祭」という全校生徒が夜を徹して80キロ歩き通す行事のなかで、ある秘密を打ち明けようと誓いを胸に抱いて、この行事にのぞむ。爽やかでキラキラした青春の陽の部分だけでなく、それを客観的に冷めた目でみている青春の陰の部分までもが描かれている。勇気をもらえる一冊なのでぜひ読んでみてほしい。

1-3 下村明日香

『武士道シックスティーン』 誉田哲也

全中準優勝の剣道エリート、「剛」の磯山香織。日本舞踊から剣道へと転身し「お気楽不動心」で楽しむ「柔」の西荻早苗。中学最後の市民大会、香織は早苗に敗れてしまう。その後、奇しくも同じ高校に進学することとなった二人。正反対の彼女たちが、切磋琢磨しながらどのように成長していくのか、是非読んで確かめてほしい。

2-2 青竹百恵